

創業100年、中区の料亭蔦茂

市建造物資産に登録



創業100年を迎えた料亭蔦茂—いづれも中区栄3で



市担当者から登録100号の標章を受け取る深田さん

お座敷遊び手軽に 「文化や歴史アピール」

東海地方の財界人らに愛されてきた中区栄三の料亭蔦茂が今年、創業百年を迎え、市登録地域建造物資産の第百号に登録された。店側は今後も建物の保全と活用を図るため、お座敷遊びを手軽に楽しめる機会を設けたり、文化イベントを主催するなど「日本文化のテーマパーク」を自指すという。

(竹田佳彦)

同店が第百号となったの役割に注目したといふ。登録地域建造物資産は、市内にある伝統的建造物をもとに、主人の深田正雄さんをおと、市が二〇一一年に始めた制度。築五十年以上で老朽化が著しくなく、所有者に今後保持する意思があることが条件となる。これまでに熱田区のきよめ餅本社や東区の筒井小学校、千種区の東山植物園武家屋敷門、緑区の名鉄自動車学校(旧鳴海球場)などが登録された。市内では〇八年秋の料亭の閉店が相次いだ。蕨茂も客足が減ったが、そんな中で「日本文化のテーマパーク」として、お座敷遊びの会を比較的低料金で開くなど、伝統文化と市民との橋渡し役を務めている。座敷では季節の食材を取り入れた料理で客をもてなすと同時に、茶道や華道の催しなどを企画。若者とともに宴席を盛り上げる男若者で「太鼓持ち」とも呼ばれる「幫間」のお披露目を開くなど花柳界とも協力してきた。

今回の登録は、景観的価値のある建物で文化的価値を続けてきた姿勢も評価された。深田さんは「一人でも多くのお客さまに来ていただき、実際に建物の良さを感じていただきたい」と話している。

昭和21年建設の蔦茂旅館前景、当時のままの「ヒノキとシバ材」粋な黒塀と7室の元旅館建物は栄ミナミ・住吉町「癒やし」のスポット。